

舞台公演

-- 第8回・狭山市民芸術祭から --



2月24日 スプリングフェスティバル(大ホール)

春を演出した美の祭典

～ 盛会裏に閉幕～

第8回市民芸術祭 実行委員長 広沢 一岐

第8回芸術祭は、春をテーマにする2月19日の展示に始まり、24日のスプリングフェスティバルで、その幕を閉じました。

昨年7月発足した実行委員会は、狭山市文団連の総力を上げた形での努力を重ねつつ、この美の祭典を執行しました。市民のみならず市外からも多くの方にお出かけいただいたのは、努力が報われたことの証明です。

展示部門

今回、出品作品は必ずしも多くはありませんでしたが、レベルの高い作品が集まったことが大きな特長です。更にテーマに忠実な出品が大多数を占め、二百号の大作絵画、独創的な彫刻・陶芸、写真、仏像や鎌倉彫の秀作等、多彩でした。狂言入間川の公演写真の展示や総合空間演出、書道、華道、茶道が花をそえていました。

企画公演「春ものがたり」

長い歴史を持つ入間川の里の或る日の姿を邦楽、舞、唄、吟、コーラス、群読等で表現する新しい試みは、小ホールを満杯にした観客から稀にみる好評を得ました。成功の陰には一茶を演じた役者や子どもたちの熱演、ツルサズカンパニーのご指導、助演の先生方のお力ぞえがあったことを記憶すべきです。

スプリングフェスティバル

このたびは、市内で活動する15団体の晴れの発表の場となりました。世代を超えた美の競演です。演じた子どもたちやジャズダンスの若者たち、ギター奏者の姿には狭山市の未来が見え、三曲やかっぱれの演技には新しい地平が垣間見えます。

企画公演以外では、観客動員に成功したとはいえませんが、文団連のパワーは爆発したと思います。ご鑑賞下さった方々、ご後援・ご指導下さった皆さん、支えて下さった内外の仲間に、厚く御礼を申し上げます。ありがとうございました。